

令和3年度第4回社会教育委員の会議

令和3年8月23日(月)

午後6時00分開会

開催日時	令和3年8月23日	開会 6時00分 閉会 7時10分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 原田 隆司 副 議 長 柴田彩千子 委 員 黒木 智道 委 員 石原 芳 委 員 富田謙次郎	委 員 城 瑞枝 委 員 諏訪 啓二郎 委 員 福井 高雄 委 員 森本 榮子	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 藤本 裕 生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 内田 雄介	図書館長 菊池 幸子 公民館長 鈴木 遵矢	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第 1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について（令和2年度） (3) 地域学校協働活動について (4) 第30期社会教育委員の会議について（まとめ） (5) その他
第 2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) その他

原田議長 皆さん、こんばんは。時間になりました。
本日、長坂先生は御欠席の御連絡いただいています
まず、配付資料の確認を事務局のほうからお願いいたします。

小堀生涯学習係長 では、配付資料の確認をします。

本日の次第。社会教育委員の会議会議録（令和3年度第3回）。第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について（令和2年度）。第30期社会教育委員の会議まとめ（案）。資料1。それと、委員の方のみお配りしているチラシで、『図書館だより』第62号、63号。『月刊こうみんかん』519番、520番。小金井市青少年協議会から、『子どもの思いをきいていますか？』。

以上をお配りしています。

原田議長 ありがとうございます。何か過不足ありましたら事務局のほうへお申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、議題の1に入ります。まず1番目、会議録の承認について。お手元にプリント、横長のものがありまして、既にメールで委員の皆様にはお送りして確認をしていただいたと思いますが、その上で何かございますか。よろしいでしょうか。

では、第3回の会議の会議録については承認をいただきました。ありがとうございます。

続きまして、2番目、第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について（令和2年度）ということで、これも事前にメールでお送りしていますので、ざっと目を通していただいていると思いますが、事務局のほうから何か補足の御説明ありますでしょうか。

小堀生涯学習係長 では、令和2年度の評価についてということで、1枚めくっていただいた、2、評価結果、こちらがA、B、C、Dの評価の結果になりまして、過去の4年間プラス今回評価した令和2年度分の評価が右3行に入っています。右から3列目のところが、評価をしていただいた担当課の評価そのままを載せたものです。その右側に、コロナ等の影響があった事業について、簡単にこういうことで影響が出ましたということで書かせていただいています。

それらの内容を受けて、明らかにコロナの影響を受けて事業数が減ったり、人数が減ったりしているものについては、例年どおりの評価はちょっと難しいと判断しまして、一番右側の最終評価というところを、今年度の

最終的な評価と考えております。この評価の仕方については、今年度に入ってから皆さんにも御検討いただいて、まず数値については、そのままの数値で記載し評価をした上で、例年どおりの評価できるかどうかを考えましょうという結論になったかと思っておりますので、それに合わせた評価とさせていただきます。

1枚目に戻っていただいて、結果的にA評価が4、B評価が1、C評価が2、評価なしが14事業という形になりまして、これは例年お伝えしておりますが、ナンバー2とナンバー4、生涯学習支援事業数、あと子ども・若者対象事業については、3課、生涯学習課、図書館、公民館、それぞれで評価を行っておりますが、最終的にはそれぞれの事業数を合計してA、B、C、Dを出しております。

記載した一部を読ませていただきますが、令和2年度は、年度当初から国の緊急事態宣言や東京都の緊急事態措置が発出され、様々な事業・イベントについて、中止という決断をせざるを得ない状況が多くありました。中でも、例年の開催方法からオンラインでの開催に変更する事業等もあり、コロナ禍での生涯学習のあり方について考えさせられる年度となりました。前述のとおり、最終評価については、評価票をもとに、新型コロナウイルスの感染防止のために実施できなかった事業や、事業数、回数等が大幅に減ってしまった事業については評価なしとすることにして、結果的に14事業が評価なしという結果になりました。

今後は、これまでやってきた事業を安全・安心に行うためにはどうしたらよいか、また、コロナ禍でのこれまでとは異なる方法での事業の実施等に向け、創意・工夫をしながら事業を進めていきたいと、このように令和2年度についてはまとめさせていただきます。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。これまでこの会議の場でも数回議論をした上で、評価については各部課からは実情のとおり今までどおり評価を出していただいて、その上で取りまとめ部局のほうでコロナ禍の影響を見て、評価しにくいものは評価なしとする方向でまとめられたということであります。

2枚目、御覧のようにそういう意味で14事業がコロナの影響で評価なしということになっております。

あと、今ありましたように、例えば、4番の子どもの居場所づくり、部課がまたがっている項目がありますが、それぞれ個別では、例えば、4の子どもの居場所づくり、公民館のところでは実施できたということでA評

価になっておりますが、全体としてはDとなり、これもコロナの影響が大きかったということで、最終評価はなしとなっております。

皆様のほうから何か御質問、御意見はございますでしょうか。

福井さん、お願いします。

福井委員

福井です。お手元のナンバー5番です。評価対象がずっとここ5年間ハイフン、未実施ということで項目を記載されているんですけど、この5番のプロジェクト名、高齢者の生きがい・介護予防の充実、高齢者の運動・スポーツ実施状況ということで、生涯学習課としては実施するに当たって、ちょっと分野としては難しいんじゃないかということと、あと高齢者の生きがい・介護予防の充実というのは、当然、小金井市の福祉保健部の高齢福祉系のほうで、小悠連のほうの高齢者のスポーツ関係、例えば、輪投げ大会とか、ゲートボール大会とか、そういうものを含めたいろいろな分野、または福祉部のほうで開催されている、さくら体操とか、そういうスポーツ関係の分野が専門的に、高齢者を対象にしたある程度のデータは把握されていると思うんですけど、生涯学習課として、あえてここ5年間、評価が未実施ということで、この来期以降どうするかということも再検討していただきたいのが1つ目。

同じ内容で、8番目のスポーツの2行目の成人の週一回以上のスポーツ実施率です。この項目の詳細が18ページに記載されております。それで、読みましたら、ちょうど真ん中辺の令和2年度事業成果(D0)というところの、施設利用としては総合学院テクノスカレッジで16団体が実施しているということで書かれているんですけど、これ自体の意図するところが、場所及び団体数が非常に限定的で、成人という範疇を捉えにくいと思うんですけど、できたら社会教育施設の総合体育館において週1回スポーツを実施するとか、何かそういうところからデータを取り入れたらいいんじゃないかということで、この8番の2行目の成人のスポーツ実施率ということも再検討が必要じゃないかと思います。

それと、あともう1点。9番目の項目の3行目、出前講座の利用講座数ということで、ずっとD評価なんですけれど、例えば、最終年度の評価としては目標は50回ということで予定されているんですけど、ずっと20回、28回、30回、24回、昨年度は7回ということで、目標の50回の6割程度で推移したということで、D評価という格好で終わっているんですけど、私自身もほかのサークルで出前講座を毎年1回活用しております。昨年度だけはコロナの影響で取りやめましたけれど、また来期以降、出前講座を利用したいと考えています。

したがって、この詳細も22ページに書かれているんですけど、市報の掲載ということと、あと公民館には全て、この出前講座のチラシが複数枚、どこの館に行っても置いてあります。ただ、それが一般市民の目に入るかどうかというのは次のステップですから、できたら何かもう少し広報活動をしていただければ、もう少し利用団体の活用としては市民に喜ばれる項目だと思いますから、できましたら、公民館の棚にチラシが置いてある以上に、何か公民館講座でその代表者に紹介するとか、もう少し積極的なアプローチを市民にしていいただければと思います。

以上です。

原田議長 ありがとうございます。ただいまの御意見は3点で、前2つはスポーツに関する事業計画で、この5年間未実施のままになっていると。

それから、もう1つは出前講座の利用について。これはもっと積極的に利用できるような広報PR活動が必要ではないかという御指摘であったように思います。

スポーツに関しては何か事務局のほうからお答えありますでしょうか。

小堀生涯学習係長 こちらの3次の計画を作ったときと同じときにスポーツでも計画を策定しておりまして、そのときにこういった調査を行っていました。その段階では毎年度やっていくかどうかというところははっきりしていなかったんですけども、ただ、こういったアンケートの結果のほうは数値として計るのにはいいのではないかという考えもありまして、記載しております。また、スポーツの計画も同じタイミングで次の計画を予定していたので、最後の年についてはアンケートを行うことができれば、少なくとも5年前、平成26年度の比較はできるんじゃないかということを想定して3次の計画を作ったんですけども、結果的にスポーツの計画は延伸しまして、このアンケート自体取られなかったという経緯がありまして、5年間未実施という形になりました。

原田議長 スポーツ担当の課長から。

内田生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 スポーツ担当課長です。今、小堀のほうから説明がございましたが昨年12月に皆様にお話しさせていただいたスポーツ推進計画というのがあるんですけども、それをここで2年間延伸させてもらいたいと。要するに、コロナで施設も使えない状況で、不安定な状況が続いていて、運動ができないからという

ところで御説明させていただきましたが、今小堀が話していたスポーツ推進計画というのが、実際のところは去年度でアンケートを取って、それを元にして計画を作っていこうというものだったんですけれども、2年間延伸になっていますので、アンケート自体は今年の下半期で取ろうと考えております。実施率というのが今、どのぐらいになっているのかというのをあえて、改めて集計し直させていただこうと思っています。2年延伸というところで、来年度1年かけてスポーツ推進計画を、しっかりそれを元にして練っていきたいと思っていますので、ですから、調査結果に関しては来年度には出てくるかなとは思っております。

原田議長 ありがとうございます。出前講座については。

関生涯学習課長 生涯学習課長です。御指摘のとおり50回というところで、ここ5年間見ても、ちょっと50回には遠く、令和2年度に関しては、これはかなり特異事情がありましたが、中身の充実について、毎年度見直しをして、新たに加わった項目も多少なりともあるという中で、周知が課題かなとは思ってしまして、今、具体的なこともおっしゃっていただきましたので、そういった周知を地道にやっていくということは、効果を広めるということもあるかと思っておりますので、今後は、今こんな状況ではありますけれども、幅広く多くの方が利用していただくようなことは考えていきたいと思っています。

 以上です。

原田議長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。
 そのほかの委員の皆様、何か御質問、御意見等はありませんでしょうか。
 どうぞ。

柴田委員 評価とは関係ないんですけれども、1点教えていただきたいんですが、この出前講座なんですけど、例えば、これから地域学校協働活動などの、放課後子ども教室で利用したいという場合は利用可能なんですか。放課後子ども教室、あるいは、地域学校協働活動で地域の保護者や住人の方が放課後の子どものいない教室で、例えば、学びたいといった場合に利用することはできるんでしょうか。

関生涯学習課長 基本的に市の事業について、市がどういったことをやっているかということ、市民の方に知っていただくということは、この出前講座の趣旨にな

りますので、できないことではないのかなとは思っています。

小堀生涯学習係長 出前講座については、10人以上の市内在住者等の団体や小学校、中学校でも活用していただくことができますが、講座のメニューが決まっていますので、そのメニューの中で、出前講座の対象団体にあてはまるのであれば、活用していただけるかと思います。

柴田委員 ありがとうございます。すいません、直接評価とは関係なかったのですが、参考までに伺いました。

原田議長 出前講座というのは講師の派遣は無料ですよ。そういう意味では活用できるものですので、つまりその学校の保護者の方がテーマを決めて、それに合った方をお呼びするというのは、これは積極的にやればいいのかという感想を持ちました。

そのほか、よろしいでしょうか。

富田委員 富田ですが、図書館と公民館についてちょっとお伺いしたい点があるんですけども、この3番の図書館の1人当たりの貸出冊数と出ていますけれども、これは人数が減れば予算は削られるんでしょうかというのが1点。

それから、もう1つは公民館の利用なんですけど、今、公民館は1館4時間まで、月4回予約できるよという形になっているんですけど、なかなか4時間をぴっちり使っている方って少ないんです。ですから、もうちょっと時間を短く、例えば、3時間だとか2時間だとかいう形で、利用回数、予約できる回数を増やすということは検討していただけるのでしょうか。

原田議長 まず図書館長いかがですか。

菊池図書館長 図書館長です。この数字がすぐ予算に反映してくるかというところ、そうは考えていないところです。長期にわたってだんだん図書館の貸出冊数が減ってくるとかいうことになってくれば、多少そういうことも考えなくてはいけなかなという気がしますが、今回、コロナの影響があるというのがありますので、私たちも貸出冊数については上げていく方向で考えておりますし、今のところ予算のほうでということはお考えしておりません。

富田委員 ありがとうございます。

原田議長 公民館長、お願いいたします。

鈴木公民館長 稼働率を上げるという意図で、もうちょっと細かな貸出区分を設定できないかという御質問かなと思います。そういった対応ができるかどうかについて、即答はなかなか難しいなと思いますので、担当者にそのような意見があったと伝えて、考えていきたいと思います。

富田委員 ぜひともお願いいたします。

原田議長 ありがとうございました。そのほか、何かありますでしょうか。

黒木委員 黒木です。9番の学びを継承するための仕組みづくりの中の一番上です。社会教育関係団体登録制度についてですが、あまりよく知らないスポーツ団体の方が学校に来ていたことがあるんですけど、例えば、学校の施設の設備を借りたい、解放するという場合に、この団体登録が必要だよということについて、何らかの形で周知をしているのかどうかということが気になりました。ずっとC評価が続いているので、何かやっていることがあったら教えてください。

小堀生涯学習係長 現状では、学校を利用しているスポーツ団体の方がすべて社会教育団体に登録しているということはないんですけども、ただ、学校のほうでも体育館とか校庭とかを使う団体の方々は、なるべく社会教育団体に登録していた方がいいのではないかという御意見もあって、学校から団体登録の制度を紹介してくださって、生涯学習課のほうで受付をした団体も何団体かあります。今の段階で社会教育関係団体登録をしないと学校の施設が借りられないとなっているわけではありませんが、登録団体を増やしていくことや、施設利用の整備をするという考えもあるかもしれませんので、今後検討したいと思います。

黒木委員 関連して。学校側としては、突然代表者が学校にやってきて、体育館を使わせていただきたいということを申し出てくるのが実際にあるんですけど、そのときに私たちとしては、その方々がどういう団体なのかとか、何者なのかというのが全く分からないんです。基本的に平日の放課後の貸し出しについては、学校の判断でというふうに言われているので、そういうときに社会教育関係団体に登録されているということであれば、学校としては安心感がありますので、ぜひそのあたりの紐付けがあったほうがい

いのかなと思ったりもしていました。

以上です。

関生涯学習課長 現在、社会教育団体につきましては、公表させていただいております、最近でもホームページに社会教育団体の一覧ということで載せさせていただいておりますけれども、今後とも学校のほうでも分かりやすいようにということで、周知については考えていますのでよろしく願いいたします。

原田議長 関連して質問ですけれども、既に登録している団体はたしか更新のときに市役所から連絡がきて提出してくださいという形になっているんですね。全く新しい団体というのはどういうふうなこういう制度があるということを知るようになるのでしょうか。

小堀生涯学習係長 登録については、既存の団体には、登録が終了するので続けて登録してくださいという御連絡するんですけれども、同じタイミングで市報にも載せているので、新しい団体が登録に来られることもありますし、また、どこのタイミングでも御相談があれば、そういう登録がありますということで御案内はしておりますので、いつでも受け入れる準備はできております。

原田議長 先ほど黒木先生のほうからありまして、学校のほうで、この団体がどういう団体かというのは分かると思いますし、それから、一般の市民もそのホームページを見れば、こういう団体なのかと内容が分かりますよね。そういう意味では社会教育活動の普及には欠かせないツールだと思いますので、充実をしていただけたらと思います。

ほか、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、第3次の小金井市生涯学習推進計画評価について、終了いたします。御承認をいただきました。

3番目。地域学校協働活動についてということで、これは今回は審議事項があるわけではないんですね。

小堀生涯学習係長 そうですね。前回、勉強会ということで、コーディネーターの方にも来ていただいて、皆さんお話を聞いていただいたので、今後に結びつけるために、何か御意見とか課題とか、気づいたことがあればお話いただければと思っています。

原田議長 分かりました。今お話のように、前回7月26日の勉強会に出ていただきましたが、それを踏まえて、そのときの御感想なり、あるいは、そこで気づいた課題のようなものがございましたら挙げていただきたいと思いません。いかがでしょうか。

福井さん。

福井委員 福井です。昨年度は緑小、本年度は一小、前原小、南中ということで4校、活動を開始するという事なんですけれど、さらに来年の4月以降こういう取組を、小学校および中学校にどう取り組んでいくのかということをお聞きしたいのが1点と、あと令和3年度、この3校を増やしたために、市の予算として480万円ほど計上しているんですけど、一番多く使うのはどういう項目があるかという、その2点をお聞きしたいと思います。

原田議長 お願いいたします。

関生涯学習課長 1点目です。来年度以降についてですが、将来的には14校という形では考えています。進め方としては、必ずしも地域学校協働活動をやるに当たってコミュニティ・スクールも一緒に行うことは必須事項ではないんですけども、どちらも一緒にやっていくというのが小金井型という形となりますので、両輪という形で進めておりますので、所管となります学校教育とも調整しながら、一足飛びにぼんといけるものでもないなとは思ってはいるんですけども、今までやったことも踏まえてフィードバックしながら進めていければなと思っています。なかなか課題は多いのかなとは思ってはいるんですけども、将来的には14校は目指してまいりたいと思っています。

それと2点目、予算については、基本的にコーディネーターさんや学習支援員などの謝礼が一番大きくなっております。細かいことを言いますと消耗品とかありますけれども、全体を見ると、謝礼というところが大きいのかなとは思っています。

原田議長 勉強会で緑小の現在の状況をつぶさに聞かせていただいたんですが、それに関して御感想なり、あるいはそこで感じた今後の課題のようなものはありますか。実際にどういうふうに行っているか我々は初めて聞かせていただいたんですが。

森本さんは、お聞きいただいていたかでしたか。

森本委員

前回、勉強会に参加させていただきました。こんなにきめの細かいというか、心の温まるというか、そういう活動をしていることにまず1つは感激し、とても立派な活動だなと思いました。

ただ、ここで感じましたのは、この活動を周知していくということについて、どんなふうに課題を考えていらっしゃるのかと思いました。

皆さんに、もっと多くの利用したい方、あるいは、それを知ったことで利用しようと考えた方に、もうちょっと積極的に周知できたらいいのではないかと思います。

第4次の生涯学習推進計画を前々回頂戴して拝見しましたら、立派なきめの細かい、本当にいい活動をたくさんしているけれども、私自身が誠に知らなかったということに、自分もこの役をお受けしながら改めて感じたところです。

勉強会のときにも思ったんですけれども、このようなすばらしい活動を多くの人が知り参加するきっかけを組織や仕組みの中で、外に向けて発信したり、場の提供やコーディネートをするなど、積極的な活動をしていく形をどういうふうにつくったらいいんだろうなと考えました。

原田議長

石原委員は、この当事者になるわけですね。そういう意味で、この間の勉強会はいかがでしたでしょうか。

石原委員

小学校は今までやってきたことは結構、放課後子ども教室とか、いろいろやっているところが多いんですけれども、中学校というのは放課後子ども教室自体がないところがほぼで、そこで今までやってきたことをやっていますという小学校の方向と比べると、またちょっと中学校は課題があるのかなというふうに見えてきたかなと思うんですが。

だからといって、大きいことを計画するのではなくて、子供の居場所というところで、中学校になると部活動と登下校の時間という兼ね合いが出てくるので、そういったところを考えながら。やっぱり距離も学区が広がるので、小学校だと遠くても20分とかというところが30分以上かかる子も出てきたりというところを考えると、その時間、学校にいられる場所をつくってあげるというところを考えながらいくというのが、今までやってきた中で生かせることかなとお話を聞いていて思いました。

今後やっていく上で、小学校は今までの中でですけれども、中学校はそこからまた新しく何かと考えがちなので、そうではなく、子供たちがいられる環境を広くするという目を持って考えていったほうが考えやすいかな

というふうには思いました。

あと、ちょっと当事者としてですが、学校運営協議会になって参加した上で、第1回目を立ち上げたときに、私たち南中はメンバーがほとんど替わらずに、ぽんと名前だけ変わって、運営連絡会から協議会という形に変わったんですけれども、出てきている人がただ名前が変わっただけで、この団体は何なんだろうと理解を全然していなくて。そこで、じゃあ学校運営協議会は何をするんですかとか、コミュニティ・スクールとは何ですかというところから始まってしまって、なかなか先に進めない状態で、かつ今、緊急事態宣言中とかで会議もままならぬ状態で進んでいて、南中は2か月遅れでまた2回目をやる感じになってしまっているのです。

さて、2回目を蓋を開けたときに、皆さんがそれを理解して会議に入れるのか。子供の居場所をつくるために何をしていきたいですかという話にすぐつながるのかというところがちょっと不安があるので、そういうところも委員になる方には、こういうことをやります、こういう内容を今後こういうふうに学校で進めていきたいですという1枚ペラでもいいので先に渡されていると、少し前段階があって進めやすいかなというのがあります。ちょっと校長先生が皆さんに一から説明しなくてはいけないという、時間ももったいないなと思ったので、そのところも考えながら。

次年度は多分中学校も入ってくるでしょうし、小学校もまた増えるので。分かっている方が入ってくればいいんですけど、分からない方だと、社会教育委員に入っただけでも分からないのと同じで、多分理解するまでに時間がかかるのかなと思うので、そこも踏まえて今後やっていかなきゃいけないかなというのと、小学校と中学校は子供たちも成長して変わってくるので、その変わることも考えながらやっていったらいいんじゃないかなと、当事者でもあり、外側のほうからとしても思ったので。できたらいいなというのと、ここでもそういう課題を少し持ってお話が進んで、渡してあげられたらいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

原田議長

ありがとうございました。いろんな課題があるようですが、柴田先生、専門家として。

柴田副議長

緑小学校のコーディネーターさん3名のお話を伺いまして、特段新しいことをやり始めたということではなくて、今までやっていた活動をまずは見える化して、整理をして、人が替わってもその活動が踏襲されていくようなシステムをつくり、そして、さらにその内容を精査していきながら、

子供たちのために、また住民のためにという視点を持って充実化しているということが3人のお話を伺ってよく分かりました。

3人のコーディネーターの方々がそれぞれ現役の保護者であったり、それから町会に通じている方であったり、地域のいろんな、緑センターなどの社会教育活動に通じている方、それぞれ分野を持っていて、うまくコーディネート役割を分担されているなという印象を持ちました。

こういった活動の中で、先ほど石原委員からもお話がありましたが、2021年度からコミュニティ・スクール化した3校の取組の状況がどうなっているのかということ、緑小がうまくいっている分、あとの3校はどうなのかなということ、そこにちょっと思いをはせながら前回の研修を伺っておりました。

社会教育の側からできることとしましては、例えばコーディネーターさんの中で、公民館で講座を毎年受けられていて、そこでいろんな講師の方を発掘して学校につなげたりというようなときに、活動しやすいようにページを教育委員会が作ってさしあげるとか、それから公民館側もそういった事情を理解して、コーディネーターさんを信頼して、講師の方を紹介してあげるとか、そういった社会教育の世界と学校教育の世界を行ったり来たりすることが円滑にできるような仕組みをつくるのがまず第一だと思いました。

それからコーディネーターさんが、なかなか教員ができないことを、学校教育活動に支援をしてくれる住民の方々へのフィードバックですかね。日常生活を通してお礼を言うとか、子供の様子を伝えるとか、そういったきめ細やかな住民の方々へのフィードバックをされているということがうまくいくことの秘訣なのかなと思いました。

それから、先ほど中学校での地域学校協働活動の在り方というところにつきましては、また小学校とは別立てで考える必要があるのではないかと思います。中学生はどちらかというと、小学校の高学年もそうですけれども、大人が支援をするだけではなくて、積極的に町に出てもらって、将来地域を担う存在としての自覚を持つような活動を地域の方と一緒にするというか、市民になるための活動を行っていくこと。

それから中学校の場合は部活動支援というところを。部活動の支援員が配置されていますけれども、まだまだ数が足りないですので、そういった側面から生徒を支援するということは、教員を支援するということにもつながると思いますし、そうすると教員も支援をされている分の時間を例えば授業研究、教材研究の時間に使えたりとか、放課後のゆとりの時間を使えたりというようなことも起こると思いますので、中学校の在り方、地域

学校協働活動の在り方というのは、これからまた別立てで議論していく必要があるのではないかと思います。

原田議長

ありがとうございました。これからの課題をどう解決していくかというヒントを出していただいたと思います。今後の参考にさせていただければと思います。これについてはよろしいでしょうか。

それでは、次、4番、第30期社会教育委員の会議について（まとめ）ということで、これも既にメールでお送りしていますので、目を通していただいていると思いますが、資料1を御覧ください。全部で6項目、この2年間の私たち社会教育委員の会議の活動のまとめということで、事務局のほうで案を作ってくださいました。

1点目は、第4次小金井市生涯学習計画の策定についてということで、この1年、そこに書いてありますように、3つの施策の方向性、それを踏まえて基本理念「学びでつながる笑顔のまち小金井～さあ、動き出そう！人生100年時代～」、こういったものを基本にした計画の策定ということで、議論を重ねましてまとまりました。今後の5年間の計画の基になるものであります。

2つ目は、第3次小金井市生涯学習計画の評価ということで、先ほど議題にもありまして議論したとおり、評価の方法も含めて話し合いをいたしました。

3つ目は、都市社連協です。東京都市町村社会教育連絡協議会、この活動ということで、30期のうちの最初の年度、令和2年度が、この都市社連協第5ブロックの幹事市として小金井市が担当しました。御記憶にあると思いますが、第5ブロックの研修会として昨年、コロナ禍ではありましたが、工夫をしまして研修会を実施いたしました。江戸糸あやつり人形、結城座の方をお招きして、お話と共に実演をさせていただいたということで、参加の皆さんからの御好評をいただきました。

4つ目は宿題のようなものです。前期からいただいている宿題です。生涯学習支援センター機能について。生涯学習を支援するセンター機能を、市民の皆さんが生涯学習にアクセスしやすいように、参考になりやすいように、いろいろ資料の整理とかホームページの充実などをやっていくということ。これはなかなか具体的に前進しないという実情があります。今後も課題として引き続き検討してもらいたい。

さらに、コロナ禍で明らかになっているオンラインを活用した学習というものが大変有効だということもありました。そういう学習の多様化についても含めて検討していただきたいと思います。

5つ目は、地域学校協働活動についてということで、先ほどの議題でも議論がありました。前期、29期の活動の中で、小金井市での地域学校協働活動の実現に向けてという提言を教育長に提出いたしました。その関連で、実際小金井市の市政として、令和2年度から、先ほど来お話があった緑小学校での具体的な実施、活動が始まりました。今後、全学校に広がるということでもあります。ということで、これについては、今後も研究テーマの一つとして経過について勉強を続けていこうということでございます。

最後は全体を通じたの来期、31期の委員の皆様へのお願いということになっております。第4次の生涯学習推進計画、これが具体的にどのようなように推進されていくかということについて検討を加えていただきたいということが1つ。

それから、小金井市での地域学校協働活動については、今申し上げたように、さらに実施校が増えていくという中で、今後も社会教育委員の会議の主要な研究課題の一つとして注視、検討を続けていただきたい。特に先ほど柴田先生からお話がありましたように、社会教育委員の会議として何か具体的に参考にしていただくことはないかということも含めて、検討を加えていただければと考えています。

ざっと以上のようなまとめでございます。何かこれについて御質問、御意見はございますでしょうか。

福井さん、どうぞ。

福井委員

福井です。簡潔に第30期の項目も今、原田議長が説明されたようにまとまっているんですけども、一通り私もこの文章を事前に読んできたんですけども、3段目の東京都市町村連絡協議会の1行目の文面だけ一部、簡潔な文章に直したほうがいいのではないかと思います、一言だけ意見として申し上げます。

「令和2年度は、都市社連協の第5ブロック幹事市となったため、第5ブロックの研修会の企画・実施をしました」ということは事実、そのとおりなんですけれども、第5ブロックの幹事市になったためというのではなくて、10年計画の中の一つとして、前期の委員の方は全部資料はお持ちなんですけれども、令和2年度は小金井市は第5ブロックの幹事市ということは明示されて認識しているから、あえてもう少し簡潔な文章でいいかということなんです。

私が思ったのは、「令和2年度は、都市社連協の第5ブロック幹事市として、研修会の企画・実施をしました」ということで、第5ブロックという言葉自体を1か所だけにするというのと、幹事市というのは10年計画に

記載されていますから、「なった」と言ったら、初めて認識したような年度になるような意味合いだと思いますから、その文面だけ簡潔にさせていただければと思います。それ以外は非常に丁寧な文章で作成されて、簡潔な文章だと思います。

また、30期のまとめ自体は、当然私も過去5年ぐらいの申し送りのまとめを見させていただいているんですけども、今後31期、32期の委員の方にも、この30期のまとめということがつながってくるということで、非常にいいまとめ方で、今後、資料として継続していただければと思います。

以上です。

原田議長 ありがとうございます。福井さん、確認ですが、今の御提案の修正ですけれども、3項目の1行目ですね。「令和2年度は、都市社連協の第5ブロック幹事市として」、その後は？

福井委員 「研修会の企画」で。

原田議長 「第5ブロックの」を削除するということですか。

福井委員 そうです。簡潔な文章でいいと思います。もう少し細かく言うと、「企画・実施をしました」と言うのではなくて、「企画して開催しました」というほうが小金井市で開催したんだなということを再認識、来期の人もぱっと見て、第5ブロック幹事市として小金井市が開催したという意味合いも含めて。「実施した」というのと「開催した」ということは意味合いは一緒ですけれども、細かく言うと「開催しました」という言葉のほうがいいかなと思います。

以上です。

原田議長 確かに「となったため」と言うと、なったのでしようがなくてみたいな感じがあるので、「幹事市として」ときっぱり書いたほうがいいかなと思います。

その次が「第5ブロックの」を消してしまうと、ブロックの研修会だということが曖昧になりませんか。「第5ブロック幹事市として」、「第5」が重なるのであれば「ブロック研修会」。

福井委員 ブロック研修会を開催しましたということとつながるから。

原田議長 それで「実施」のところを「開催」と。

福井委員 2行目以降が内容が記載されているから、そういう内容で開催したという
うこで、理解できると思います。

原田議長 「第5ブロック」を全部なくさないで「ブロック研修会」というふうにし
たらどうかと思うんですが、いかがでしょうか。続けて言いますと、「令
和2年度は、都市社連協の第5ブロック幹事市として、ブロック研修会の
企画・開催をしました」というふうに修正ということでいかがでしょうか。
よろしいでしょうか。では、そのように小堀さん、お願いいたします。

そのほかに御意見はありますでしょうか。あと細かいことですが、第3
0期がいつなのかなと分からないので、一番頭に今日の決定した日付を入
れることはできますでしょうか。入れたほうがいいですよ。30期と調
べれば分かるんですけども。

小堀生涯学習係長 そうですね。日付のことを言っていたのに記載し忘れまし
た。申し訳ありません。

原田議長 よろしければ、一番冒頭に日付を入れて、先ほどの部分を修正し、会議
のまとめということで、「案」を取るということで、来期に引き継いでいた
だくと。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、議題5番目、その他、何かございますか。ありませんか。

それでは、報告事項です。報告事項は何かございますでしょうか。

どうぞ。

内田生涯学習部オリンピック・パラリンピック兼スポーツ振興担当課長 パラリンピック
の聖火リレーに関して報告させていただきます。

パラリンピックの聖火は、オリンピックの聖火と異なりまして、発祥地
のイギリスのストーク・マンデビルで採火された日と、それから開催都市
の複数の都市でおこされた火、これを1つに統合してパラリンピックの聖
火という形になっています。

については先週の金曜日の8月20日に、都内で一斉に採火式というのが
実施されまして、本市においてもSOCOLA武蔵小金井クロスのコロス
コート広場、こちらにおいて「小金井の火」の採火を実施いたしました。
柴田先生の教え子の学芸大の学生さんにもお手伝いいただきました。あり

がとうございました。

その後、「小金井の火」に関しましては、東京都庁のほうに持っていきまして、東京都下62区市町村、全部集めまして、「東京都の火」となりまして、さらにこれが赤坂迎賓館で全国から同じように集まってきた火と1つに統合されて、パラリンピック聖火が誕生しております。

肝腎のパラリンピック聖火リレーですけれども、公道走行を見合わせまして、セレブ会場で点火セレモニーだけが実施されております。まさに今日ですが、本市においても都立砧公園において、観光大使のスキー選手の浜井慧さんが参加されております。

パラリンピック自体は明日開幕になりますが、本市からは車椅子バスケットボール女子の小田島理恵選手が出場されております。引き続き市として応援していきたいと思っております。

報告は以上です。

原田議長 ありがとうございます。そのほかに報告はありますでしょうか。ないですか。

それでは、本日の議題と報告事項はこれで終わりです。第30期の社会教育委員の会議、このメンバーでの会議はこれで終了になります。ありがとうございます。

最後ですので、お一人ずつ簡単に、短くてあれですけれども、感想なり御挨拶を伺えればと思います。こちら、富田先生からぐるっと回っていただいて。

富田委員 2年間いろいろお世話になりました。ありがとうございます。私、体協から来ているんですけれども、来期もまた引き続きやらせていただきますので、よろしく願いいたします。どうもお疲れさまでした。(拍手)

福井委員 福井です。本日のような座学講座を含めまして、都市社連協の交流会、あとは関東甲信越での研修会ということで、他市の人と非常に交流ができたということと、学ぶ点も非常に多かったと思います。ですから皆さんも今後いろいろな委員、また継続される委員の方もおられると思うんですけれども、他市との交流会ができる会合がいろいろありますから、積極的に御参加されれば社会教育委員としての地位向上に関与していけると思います。以上です。(拍手)

原田議長 では、森本委員、お願いします。

森本委員

2年間、皆さんと御一緒させていただきまして、まずは私自身が社会教育委員の役割というか、社会教育というものに対して、改めてお勉強をさせていただき、大変ありがたかったと思っております。

この勉強させていただきましたことが、人生100年時代、これからどうしよう、子供が生まれた、じゃあどうしようというときに、こんなにいるんなことが、そういう一つ一つの場面でこういう活動が、あるいは自分を高めることができるような勉強の場があるんだということを私自身も改めて知ったのと同時に、市民の方たちがどの程度、どんなふうの中身を捉えていらっしゃるか、どういう場面で知ることができるんだろうと改めて考えさせられております。

ですからそういうことに対する、どういうふうにしたらいいのかなという提言とか、いろんな考えていることを次の2年間に向けて活動する中において、そういうところのコーディネーターをしていくとか、その場を提供するとかいったことで、せっかくつくったすばらしい策定を市民一人一人に、「あっ」と思ったときにあそこに行って飛び込めば、そういうことが分かる、教えてもらえるなというような場があったらとか、そんなふうにごこのところ考えさせられております。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

原田議長

諏訪さん、お願いします。

諏訪委員

諏訪です。個人的には大変勉強になったんですが、あまり委員としては機能しなくて大変申し訳ありませんでした。2年間お世話になりました。ありがとうございました。短いですが、以上です。(拍手)

原田議長

城さん、お願いします。

城委員

6年間、お花のことしかほとんどしていなかったので、小金井市の成人式にお花を生けさせてもらい、あれは勉強になりまして、毎年成人の方をお祝いするという気持ちがすごく湧いてきました。

ゼロ歳から100歳までの皆さんのいろんなことを考え、いろんなことができるんだなということを、この社会教育委員をやらなかったら多分知らなかったし、すごく勉強になったし、お花も生けさせていただいてよかったなと自分で感謝しております。ありがとうございました。(拍手)

原田議長 黒木委員、お願いします。

黒木委員 今年の4月からこの委員として参加させていただいて、まず思ったのは、社会教育委員の皆さんが本当に生涯学習について考えて議論する、こういう熱心な会議が小金井の中で開催されていたんだなというのを改めて分かることができたと思います。

それから学校ですので、地域学校協働活動と社会教育を結びつけていくということが、これからもっともっと求められていくのかなという気がします。先ほど柴田副議長からあった小金井市民となるための活動ということが何か私の中ではキーワードとして残ったので、今後、社会教育と地域学校協働活動というのをさらに充実させていきたいなと思っています。

市の関係者の皆さん、毎回本当に膨大な資料の作成、御苦労さまでした。ありがとうございました。以上です。(拍手)

原田議長 では、石原さん、お願いします。

石原委員 私は4年間、今のところやっけて、来期もやらせていただくことにはなっています。PTAから出ているので、学校の保護者の代表として、ここで意見が言えたらいいなという形で最初は出ていたんですけども、いろいろお話を聞かせていただいたりとか、今、当事者になって、地域学校協働活動を動かしていく上で、管外学習に生かさせていただいたのがすごくありがたくて、他市のことというのは、学校にいるだけでは全く見えてこなかったりというのはあるので、今回、地域学校協働活動を立ち上げる、CSを立ち上げるとなったときにすごく生かされる場になったなというふうにすごく感じております。

また来期に向けても、小学校と中学校の違いも見えてきたので、そこも考えながら、来期の方々とどう進めていったらいいのかなというのを考えつつ、それを中学校に持って行って、仕組みづくりに役立てていけたらいいなと思っています。

あと1期しかいられないんですが、しっかりやって、残せるものを残していけたらいいなと思っています。また2年間、どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

柴田副議長 この第30期はコロナ禍という中で、非常にふだんとは違う環境の中で、こういう会議の機会を持ったりとか、コロナ禍の中でできることを、例えば第5ブロックの研修会とか、それから管外研修の在り方もコロナ禍の中

で、このスタイルに合わせて先日行ったりとか、いろいろ工夫しながら皆さんと知恵を出し合って進めてきたなという感があります。

原田議長には適切に進行していただいて、議論をまとめていただいたり、また、事務局の方々には膨大な資料を作成していただいたり、皆様方いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。(拍手)

原田議長

原田です。3期6年間お世話になりました。本当にありがとうございました。6年前に本当に市のことを何も知らない市民として参加をさせていただいて、この会議に出ていろんなことを勉強ができて、大変ありがたいと思いました。特に後半の3年間、地域学校協働活動、それから第4期の生涯学習計画、この2つに関わられたということは、やりがいがあったなというふうに今本当に正直に思います。

いろいろ勉強をしていく中で、社会教育というのは学校とか医療とか福祉と並んで、本当に市の仕事の中心ではないかということがひしひしと分かりましたので、それは一人一人、ここに住んでいる市民の生活に直結する大事なものだということです。ふだんは全然意識していないんですが、そんな大事なものだったというのがよく分かりました。

そういう意味では、これで委員を降りますけれども、一市民として、死ぬまでこの市にいるつもりでいますので、関心を持っていきたいなと思っています。どうも皆さん、ありがとうございました。(拍手)

最後になりますが、部長からも一言お願いします。

藤本生涯学習部長 生涯学習部長です。まずは2年間、第30期の委員の皆さんには、この間、第3次の生涯学習推進計画の評価、また第4次の計画の策定ということで取り組んでいただきまして、ありがとうございました。

特に29期からの委員の皆様には、地域学校協働活動の実現に向けての提言ということでいただきまして、その提言によって地域学校協働活動のほうもかなり進みまして、今後、行政としましても14校全てが実施できるように推進してまいりたいと考えております。

特にこの間、御尽力いただきました原田議長、また城委員、今日欠席されていますけれども、長坂委員と。本当に社会教育の活動に御尽力いただきまして、生涯学習部職員全員としても感謝している次第です。

なお、また31期が始まりますので、今後とも残られる委員の方にはよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。(拍手)

原田議長

それでは、本日の社会教育委員の会議はこれで終了いたします。どうも

ありがとうございました。